



中央中だより

<第6号>



◇ 2学期のスタート にあたって ◇

45日間の充実した夏休みを終え、学校に生徒たちの元気な声と笑顔が戻ってきました。今日から2学期が始まります。保護者の皆様、地域の皆様には、夏季休業中の温かい見守りとご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

2学期は、生徒たちにとって楽しい学校行事がたくさん予定されています。仲間と力を合わせて取り組む活動、一人一人が自分の力を発揮する場面、心を動かされる出会いや発見など、多くの生徒たちに「わくわく」が待っていると思います。私たちは、生徒たちが「やってみたい!」「挑戦したい!」「わくわくるする!」そんな気持ちを大切に、学校生活を過ごしてほしいと願っています。

また、生徒たちには、学校行事だけでなく、毎日の授業や休み時間、給食や放課後でも楽しいと思える瞬間を見つけてほしいとも思っています。日常の生活の中で、「楽しさは誰かに与えてもらうのではなく、自分たちで作り出すもの」ということを体感してほしいと願っています。「先生が楽しくしてくれる」「行事だから楽しい」のではなく、「どうしたらみんなが楽しめるか」「自分には何ができるか」と一人一人が考え、行動すること、その積み重ねが、学級や学年、学校全体の楽しさにつながると思っているからです。時には、意見がぶつかったり、思い通りにならないこともあります。そんなときこそ話し合い、工夫し、挑戦することで、自分たちで新しい楽しさを生み出すことができると思うのです。2学期のスタートにあたって、「みんなでやろう!」そんな気持ちで全員が一步を踏み出してほしいと思っています。

生徒たちが「楽しさを待つのではなく、自分たちの手でつくる!」そんな素敵な2学期の学校生活になることを期待しています。

◇ 夏休み中も中央中の生徒が関東・全国で大活躍! ◇

陸上部の生徒10名、水泳（特設）部から1名が山梨県で行われた関東大会に出場、さらに陸上部2名は山口県で行われた全国大会に出場することができました。また、吹奏楽部14名（境野中と合同）も県吹奏楽コンクールで金賞を獲得し、9月に山梨県で行われる西関東吹奏楽コンクールに出場することが決まりました。中央中の関東大会以上の出場者数は、開校以来最多だと思われます。関係された皆様おめでとうございます!



大きな舞台に立つまでには、決して平坦な道のりではなかったことでしょう。厳しい練習に耐え、仲間と切磋琢磨しながら一つ一つ課題を乗り越えてきた結果が表れたのかも知れません。成果は、選手として大会に臨んだ生徒だけのものではありません。仲間や後輩、指導にあたられた先生方、温かく応援してくれたご家族や地域の皆様の支えがあってこそこのものです。関係するすべての皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。



生徒たちには、この夏に培った「挑戦する心、努力する力、仲間や相手を思いやる心」を胸に、2学期も一人一人が新たな目標に向かって歩み続けることを期待しています。

◇ 少年の主張東毛大会で優秀賞! ◇

8月22日（土）笠懸野文化ホールで第48回少年の主張東毛大会が開催されました。東毛地区9市町の予選会を突破した19名の代表者が日頃の生活をとおして、感じていることや考えていることを発表しました。

7月の桐生市の大会で最優秀賞を受賞した本校の3年女子生徒1名も桐生市の代表として出場し、見事優秀賞を獲得しました。大きな舞台で大勢の前で発表する経験は緊張もあったと思いますが、この経験は一生の宝物になると思います。この夏、文化面でも中央中の生徒たちは活躍してくれました。皆さんお疲れ様でした。

◇ 学校行事等で「豊かな人間性」の育成をめざします ◇

2学期は、生徒たちにとって楽しい学校行事が多い学期でもあります。運動会や合唱祭、高原学校、職場体験など、大きな行事が目白押しです。これらの行事は、日頃の学習成果を発表する場であると同時に、当日までの過程で生徒たちが「集団の力」「人との関わり」を学び、自らの「人間性」を磨く絶好の機会でもあると考えています。

○行事を成功に導くプロセスにおいて、大切にしたい3つの視点

- ①「主体性」の確立：生徒自身が課題を見つけ、できるだけ自分たちで計画し、行動する力を引き出します。
- ②「寛容」「他者理解」の深化：一つの目標に向かう中で、意見の衝突や葛藤は避けられません。自分とは異なる考えや感性を持つ仲間の声に耳を傾け、背景にある思いを理解しようとする姿勢を育てるようにしたいと思います。人はそれぞれ、得意なこと、苦手なこと、大切にしている価値観が異なります。「他者理解」とは、単に相手に合わせることはありません。練習中には、失敗もあります。思い通りに動けなかったり、音を外してしまったりすることもあるでしょう。その時に必要なのが「寛容さ」です。自分の物差しだけで相手を責めるのではなく、「そういうこともある！」「次はどうカバーし合おうか？」とミスを受け入れ、ポジティブに改善策を考える広い心が生徒たちに求められます。自他の弱さを認め合い、補い合える「寛容さ」があるクラスほど、大きな成果を出し、行事後に強い絆や思い出が残るものです。
- ③「プロセス」に価値：賞の獲得や勝敗といった「結果」だけに価値を置くと、失敗した人への非難や、ギスギスした関係が生まれてしまいがちです。行事を通じて「これまでにない協力ができた」「友達の良さに気づけた」といった、内面の成長や人間関係の質の変化（プロセス）こそが最大の成果であると、全員で共有したいと思います。

本気で、全力で、取り組むことが大前提です！

◇ 大切にしたい学校と家庭・地域との連携 ◇

2学期は「実りの秋」と言われるように、日々の学習や部活動の成果が大きく現れる時期でもあります。一方で、行事へのプレッシャーや季節の変わり目による体調不良、進路への不安など、生徒の心が揺れやすい時期でもあります。この時期、「朝すっきりと起きられない」「なんとなく元気がない」「学校に行くのが辛そう」といった生徒の様子を聞くことも少なくありません。長い休みの後ですから、心と体が学校生活のペースについていけず、一時的に意欲が低下してしまうのは自然なことです。私たち大人もそんな気持ちになることはあります。焦る必要はありません。家庭と学校で連携し、少しずつリズムを取り戻していきましょう。ご家庭でも、以下の3つのポイントを意識してみてください。

- ①「早起き」から始める（早寝よりも効果的）夜早く寝かせるのが難しいときは、まず「朝決まった時間に起こす」ことから始めましょう。朝の光を浴びることで体内時計がリセットされ、夜自然と眠くなるようになります。
- ②小さな「できた」を褒めてみましょう。「朝起きられた」「ご飯を食べた」「カバンを準備した」など、当たり前に見えることでも、今の時期はエネルギーが必要です。できた行動を言葉にして認めてあげてください。
- ③「話を聴く」時間を大切に「宿題やった？」「勉強してる？」と問い詰めるのではなく、「今日もお疲れ様」と声をかけ、お子さんが話し始めたら相槌を打ちながら聴いてあげてください。不安やプレッシャーを吐き出すだけで、心が軽くなることもあります。

学校でも、最初は無理のないペースで授業や活動を進め、一人一人の様子を注意深く見守っていきます。学期始めは、特に体調や様子を注意深く見ていただき、気になることがあればご相談ください。

（文責 校長）